

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

フィリピン共和国 サマール地域開発プログラム(PHL-194416)



生徒会や教会でリーダーを務めるイウォちゃん(15歳)。
学校でも優秀な成績を修め表彰されました

チャイルドストーリー

どんな困難に直面しても 前を向いて頑張れるようになりました

サマール地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすイウォちゃんは、以前は雨漏りのする隙間だらけの家に住み、お腹が空いて勉強に集中できないこともあったと言います。貧しく困難な生活の中で、希望を持って生きるのは難しい状況でした。

しかし、3年前にワールド・ビジョン(以下、WV)のチャイルドとなったイウォちゃんは、子ども議会、子どもの権利について学ぶ集会、衛生改善運動など様々な活動に参加し、リーダーとして活動の運営にも関わるようになりました。自分に自信が持てるようになり、学校の成績も良くなったと言います。支援を受ける前の苦しい生活を思い出すと今でも思わず涙が出ますが、どんな困難があっても前を向いて努力することができるようになりました。

そんなイウォちゃんの家族は、2年前の台風ハイヤンの被害によりさらなる困難に見舞われました。家は壊れて瓦礫と化し、ありあわせの資材で父親が建てた小屋に住んでいます。しかし、内側から強くなったイウォちゃんは、こ

のような状況でも希望を持っています。「WVは地域の人々の家屋の再建を支援してくれています。私たちは必ず再び立ち上がると信じています」と語るイウォちゃん。すべての子どもが質の高い教育を受けられるような地域にしていくために、自分もできることをしたい、と夢をふくらませています。



台風で家が壊れ、父親が建てた小屋で暮らしています

2013年11月8日、超大型の台風30号(ハイエン)によりサマールADPの支援地域も被災しました。そのため2014年度は当初の計画を変更し、主に①シェルター支援、②生計向上、③子どもたちへの学習支援の3分野で活動しました。

シェルター支援

家屋が損壊／全壊した世帯を支援しました

台風により全壊した71世帯の家屋の再建を支援しました。また、支援地域から選出された36人が、政府が実施した家屋建設のトレーニングに参加し、互いに協力しながら対象世帯の家屋を建てました。各世帯の生計回復を支援するため、この建設作業にはキャッシュ・フォー・ワークとしてサンタ・リタ市から労賃が提供されます。また、家屋が損壊した30世帯に修復に必要な資材を支給しました。

 **30世帯**に資材を提供、
71世帯に家屋を支援

ぼくのお父さんと建設グループの人たちが協力して建てました



ADPの支援で再建された新しい家の前に立つローレンス君



以前ローレンス君と家族が住んでいた家
台風ハイエンの被害で全壊しました



支援地域の女性のストーリー

支援のおかげで病気の妹と家族を支えることができました

ADPの支援を受けるまで、アナリンさんは非常に困難な状況に置かれていました。6人の弟妹をアナリンさんに託して両親が相次いで家を出て行き、まだ若いアナリンさんが弟妹を養うという重責を一人で負うことになってしまったのです。加えて末の妹のマユミちゃんが髄膜炎にかかり、命は取りとめたものの頻繁にてんかん発作を起こすようになってしまいました。治療のために毎日薬を飲み、定期的に診察を受ける必要がありましたが、アナリンさんの少ない収入で6人を養い、医療費も支払うのは困難でした。年長の弟や妹は学校をやめ、生活のために学校をやめ、働かざるを得なくなった弟や妹も出ました。

そのような時にマユミちゃんがWVのチャイルドとして登録され、教育と医

療費の支援を受けることができるようになり、アナリンさんは「飛び上るほど嬉しかった」と言います。

結婚し自分の家庭を持ったアナリンさんですが、今もマユミちゃんの保護者としてADPの活動に参加しています。家庭菜園の研修に参加し、野菜の種も提供してもらって家庭菜園を始めたことにより、家族に栄養価の高い食事を作れるようになっただけでなく、作物を売って収入を得ることが

できるようになりました。得た収入はADPの貯蓄・融資組合に貯金したいと考えています。

支援によって将来に希望が持てるようになったアナリンさん。「言葉では言い尽くせないほど感謝しています」と明るい笑顔で話してくれました。



娘を抱くアナリンさん(30歳)と
末の妹のマユミちゃん(右)

台風30号による被災後、WVは支援計画を見直し、2014～15年の2年間で復旧期間と位置づけて支援を実施しています

生計向上

貯蓄・融資組合 (CoMSCA)、職業訓練、農業トレーニングなどを実施しました

CoMSCAは地域の有志メンバー十数人で構成されています。週に1度集まり、それぞれが少額を出し合いグループとして貯金し、そこから家族の必需品(例:子どもの教育費、食糧、薬など)の購入時や、非常事態(例:家族の死亡)の際に低利で融資を受けることができます。2014年度は13グループに234人が参加。台風後、生活を立て直すためにCoMSCAから融資を受けたメンバーもあり、メンバー個人にとっての経済的な支援だけでなく、コミュニティ全体の回復力の底上げにもつながっています。また、CoMSCAに参加している母親15人への職業訓練(例:スナックの製造)や、有機農法を使った農業トレーニングなども実施しました。



CoMSCA では子どもが貯金の大切さを学ぶイベントも行っています



CoMSCA **13**グループに234人が参加

子どもたちへの学習支援

子どもたちが少しでも安心して学校生活を送れるよう、学用品を支援しました

支援地域内の学校は11月に再開されましたが、校舎が損壊/倒壊し、トタンで作った急ごしらえの小屋で授業を再開している学校もあります。ADPでは、保育園、小学校、中学校に通う子どもたち2,475人に学用品を支給し、教師63人に教材を支給しました。また、小学校1校と幼稚園5校に机やイスなどの学校備品を支給しました。支援地域からは、「支援のおかげで、台風の後子どもたちが勉強を続けることができ感謝している」といった声が届いています。

台風で家の屋根が飛び、ノートもペンも水浸しになって途方に迷っていましたが、新しい学用品を支給してもらって本当に助かりました(ライカちゃん、12歳)



学用品を受け取った子どもたち。前列右から4番目がライカちゃん



子どもたち **2,475**人に学用品を支給



Q.どのような仕事をしていますか。

ADPの責任者として、プログラム全体の管理をしています。計画通りに活動が進み、地域の人々や子どもたちが生き生きと暮らせる地域づくりに役立っているかどうか常に気を配っています。



サマールADPマネージャー リーズル・R・オング (38歳)

Q.2014年の活動で大変だったことは何ですか。

台風ハイヤンが支援地域を直撃し、大きな被害を受けたことです。ADPでは家屋の再建支援をはじめとする様々な緊急支援活動を行いました。これにより当初計画されていた活動は大幅に遅れました。私を含めて3人という少ないスタッフでこの状況を乗り切るのは大変困難でした。

Q.WVで働く原動力となっているものは何ですか。

地域の子どもの人々と触れ合いながら、その生活を支援する活動をできることに喜びを感じています。困難な状況にもめげずに立ち向かっていく人々の姿勢は、私に勇気を与えてくれます。

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

台風の直撃後ライフラインが寸断された間も、日頃からチャイルドのモニタリングを行っている住民ボランティアの協力により、迅速にチャイルドの安否を確認でき、チャイルド・スポンサーとの文通も再開することができました。



子どもの権利と責任についてのワークショップに参加する子どもたち

会計報告

PHL-194416

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

プログラム支援額(単位:円)

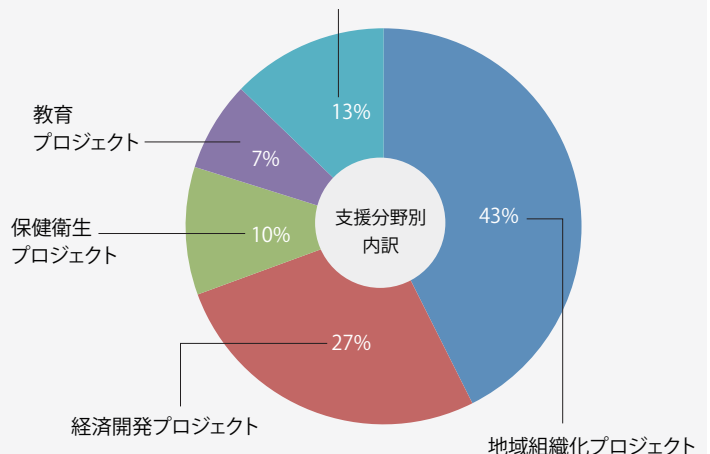
チャイルド・スポンサーシップ	14,901,574
当期支援額	14,901,574
前期繰越金	5,305,925
プログラム支援額合計	20,207,499

プログラム支出額

地域組織化プロジェクト	8,616,605
経済開発プロジェクト	5,425,339
保健衛生プロジェクト	2,112,470
教育プロジェクト	1,487,579
スポンサーシップ・マネージメント・プロジェクト	2,589,287

プログラム支出額合計	20,231,280
次期繰越額	-23,781

スポンサーシップ・マネージメント・プロジェクト



2013年11月に発生した台風30号により、サマールADPの支援地域も大きな被害を受けました。そのため、特に緊急に支援が必要な、「シェルター支援」、「生計向上」、「子どもたちへの学習支援」の3つの活動を行いました。しかし、年度途中に被災したため、当初の予算区分通り会計の記録を行いました。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
 電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
 FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
 e-mail：dservice@worldvision.or.jp